

介護老人保健施設しおさい

症 例 概 要 ご利用者：80歳代・男性・要介護2

利用期間：令和6年7月～現在

病名 ：脳梗塞（左放射冠・ラクナ）

既往歴 ：脳出血（左4視床、左側頭葉）、高血圧、慢性腎臓病、胃癌術後、前立腺癌、便秘症

経過 ：妻と二人暮らし。令和5年3月慢性硬膜下血腫、令和6年4月脳梗塞にて再入院。8月新たな脳出血が見つかったが、積極的な治療はご本人、ご家族は望んでいない。ご本人、ご家族が望む、在宅生活の継続が出来るよう、同居妻の介護負担の軽減と身体機能向上を図るため通所リハを開始した。利用当初は介護への強い抵抗から利用拒否が度々見られた。ユマニチュードを実践し、心が開き、サービス利用が出来るようになったことで在宅生活は安定。また、「釣り」という新たな目標が出来たことで、ご本人らしさを取り戻せた症例

内 容

ご本人は介護サービス開始当初、強い抵抗を示されましたが、ご家族の説得を受けてサービス利用に同意されました。しかし、介護が始まると、介助に対して拒否反応が続きました。そこで、目線を合わせて穏やかに話しかけ、体にそっと触れながら次の介助内容を説明するなど、ユマニチュードを意識した接し方を徹底しました。その結果、1ヶ月ほどで表情が和らぎ、無言だった返事が「はい」や「また来るよ」といった言葉に変わり、拒否も減少しました。

また、当初は高血圧が不安定で入浴が困難でしたが、しおさい看護師がケアマネージャーに情報提供し、ケアマネと在宅医が連携して服薬調整を行いました。その結果、入浴が可能となり、久しぶりの入浴に「気持ちよかった」と喜ばれました。さらに、皮膚の痒みが軽減し、夜間の目覚めも減少。ご家族からは「夜も寝られるようになった」と大変喜ばれました。

2ヶ月ほど経過し、在宅生活が安定した頃、ご本人の趣味である釣りに注目しました。同じ趣味を持つ職員が関わり、「また釣りに行きたいなあ」と語られたことから、釣りを目標として提案しました。また、「施設内伊豆八十八カ所霊場巡り」の特別版に挑戦し、リハビリ職員の指導で歩行訓練を開始。釣りゲームにも取り組み、「早く行きたいなあ」と意欲を見せる姿が見られました。周囲のご利用者にも気を配るようになり、「ここに捕まればいいよ」と声をかける場面も見られるようになりました。

サービス利用の調整にも柔軟に対応し、ご家族からは「釣りに行けるようになるといいね」と励まされ、照れくさそうに笑顔で頷かれました。介護への拒否を克服し、釣りという目標に向かって前向きに取り組

む姿は、以前の活力を取り戻し、まさに「キラキラ」と輝いています。

その姿は、周囲の職員やご家族にとって、言葉では表せないほどの喜びとなり、新たな自信を取り戻しました。生き生きとした表情で毎日を楽しむことで周囲を明るく照らし、周りに笑顔を届ける存在となり、そのエネルギーとポジティブな変化は職員やご家族に深い感動を与えています。

今回、ご本人が持っていた本来の輝きを取り戻し、周りをも笑顔に変えたこの症例を、キラキラ介護賞候補に推薦させていただきます。